

元気で力強い「つがる市」を願って



福島市長に市章入りかぶとを手渡す齊藤さん（右）

木造出来島で板金業を営む齊藤文隆さんが5月26日、市役所を訪れ、銅板を折り曲げて製作した市章入りかぶとを寄贈しました。

かぶとは、一辺36cm厚さ0.3mmの正方形の銅板を折り紙のように加工し作ったものです。また直江兼続の「愛」の文字を入れたかぶとをヒントに、真ちゅうで市章と「つがーるちゃん」の飾りも制作。どちらもかぶとに取り付けることができます。齊藤さんは昨年度優秀施工者国土交通大臣顕彰に選ばれるほどの技術の持ち主で、この日「つがる市が元気で力強い市になってほしいと願いを込めて作りました」と福島市長にかぶとを手渡しました。福島市長は「とても精巧にできている。農家の方たちもかぶとを見て『がんばるぞ』という気持ちになるのでは」とお礼を述べました。かぶとは市役所ロビーに展示されています。

全国優勝飾る！親善少年相撲金沢大会

つがる相撲クラブ（越後谷清彦監督）が親善少年相撲金沢大会小学校の部団体で優勝を果たし、また個人小学6年生の部で越後谷知樹君（瑞穂小）が第3位の成績を修め、6月10日、市役所を訪れ福島市長に喜びを報告しました。

同大会は6月6日、石川県金沢市卯辰山相撲場で行われ、小学校の部には全国各県から27チームが参加。団体予選は2勝1敗で勝ち進み、16チームによる決勝トーナメントが行われ、決勝戦では岐阜県のクラブを2勝1敗で破り優勝を飾りました。福島市長は「優勝おめでとう。これからも稽古を積んで次の大会でもがんばってください」とエールを送りました。団体戦の大將を務めた越後谷君は「優勝できて本当にうれしい。次は個人戦でも優勝めざしてがんばります」と力強く話していました。



大会で健闘したつがる相撲クラブの5人の児童たち

定期観光バスツアーで市内名所めぐり



ニッコウキスゲが一面に咲き乱れるベンセ湿原

市観光協会（伊藤良二会長）が主催する定期観光バスツアーが6月1日から30日までの期間実施されました。6月1日には、市役所前でツアー客を含む関係者ら約30人が参加しての出発式が行われました。式終了後、待ちかねたツアー客らは早速バスに乗り込み、ベンセ湿原や出来島最終氷期埋没林、縄文住居展示資料館カルコなどを巡り、市の自然や歴史、文化に触れながら約4時間半のツアーを満喫しました。

今年はベンセ湿原のニッコウキスゲは例年より1週間程度遅く6月中旬に満開を迎え、湿原一面は鮮やかな黄色に染まりました。

ベンセ湿原では7月にはノハナショウブが見頃を迎え、季節の移り変わりを見せてくれることでしょう。

車力中学校体育館安全祈願祭



関係者が見守る中、鍬入れの儀を行う福島市長

耐力度調査の結果、危険建物となり改築される車力中学校屋内体育館の改築工事安全祈願祭が6月2日、同校敷地内で行われました。

安全祈願祭には、工事関係者ら約70人が出席し、福島市長らが鍬入れの儀を行った後に玉串をささげました。福島市長は「来年1月の完成へ向けて順調に工事をすすめ、万全を期してください」とあいさつしました。

同体育館は面積1,578㎡でこれまでより広くなり、バリアフリー化や暖房設備など機能が向上され教育環境の充実が図られます。

柏中2年生がリンゴ栽培を学ぶ

6月7日、柏中学校（樋口貴俊校長）2年生61人が柏地区の荒谷隆志さんのリンゴ園地でリンゴ摘果作業を体験しました。この体験は総合的な学習のリンゴの生産体験の一環で2年前から実施しています。作業前に園主の荒谷さんが「質の良いリンゴを生産するために、株ごとに大きな中心果1個を残して、周りの小さな実を取ってください」と説明。生徒たちは「ふじ」のわい化樹の摘果作業を体験しました。

同校では今後、9月に着色管理や10月に収穫体験を行う予定で、11月中旬の修学旅行先で自分たちの育てたリンゴを販売する予定になっています。

この日初めて摘果作業を体験した伊藤竜弥君は「思っていたより大変だった。農家の人の苦労や大変さを感じた。秋の収穫が楽しみ」と話していました。



質の良いリンゴを生産するため摘果作業を行う生徒たち

身の周りの環境保全への意識高める



排水の浄化実験で水が浄化されるしくみを学ぶ児童たち

6月17日、育成小学校（石岡誠子校長）で社会科校外学習が行われ、4年生11人が市内の西部クリーンセンター、木造・稲垣一般廃棄物最終処分場、月見野浄水場の施設を見学し、私たちの住みよい暮らしを支える人々の仕事や施設について学びました。

最終処分場では、担当職員から有害物質が流出しないよう施設内には特殊シートが敷かれたり、排水を浄化して放流している点など環境を守るしくみについての説明があり、児童たちは真剣に聞き入っていました。持ち込まれるごみの量の多さに驚いた児童たちは「できるだけリサイクルする」「ものを大切に使う」「不要なものは買わない」など、ごみを増やさない方法について学びました。最後に瓜田汐音さんが「ごみをポイ捨てしないようポスターとかでみんなに知らせたい」と発表し、環境保全に対する意識を高めました。



早朝商店街「朝市」始まる

木造地区の有楽町と千代町商店街で6月6日、今年最初の「朝市」が開催され、多くの市民らでにぎわいました。開会セレモニーでは、長谷川靖久実行委員長が「皆で連携して商店街のにぎわいを取り戻そう」と挨拶した後、福島市長が「活気あふれる商店街を目指してがんばってください」と出店者らを激励しました。

「朝市」では大勢の買い物客が新鮮な地元の野菜、果物、海産物などを買い求めていました。また、シャモロックだしのナガイモすいとんや流しうどんなどの振舞イベントも行われ、買い物客らは舌鼓を打っていました。

「朝市」は10月まで第1第3日曜日午前6時30分から8時30分まで開催されます。

彩り豊かなバラと絵画展

6月14日、15日、木造中央公民館で「春のバラと絵画展」が開催され、多数の市民が鑑賞に訪れました。

同展はバラ愛好会（浅井恒幸会長）と絵画グループの木造チャーチル会（鎌田繁会長）が共催して毎年開催しています。会場内には約50種類350点の色鮮やかなバラが並び、鉢植えなどの販売も行われました。花や風景などが描かれた油彩画26点も展示され、彩り豊かなバラや絵画が訪れた人々を魅了していました。



地元発信の演歌を熱唱

第9回チャリティー手作り演歌発表会が6月20日、松の館で行われ、市内外のカラオケ愛好者らが自慢ののどを披露しました。発表会はつがる市の作曲家・川嶋博實さんの歌を広く知ってもらうとともに、演歌を通じて親睦を深め、地域の活性化に貢献しようと手作り演歌実行委員会（奈良一雄代表）が主催しました。この日は18組の発表者と白川武則さんら5人のゲストが川嶋さんの歌を心を込めて熱唱し、訪れた約430人の演歌ファンを魅了しました。また、同会は収益金の一部を教育の充実に役立ててほしいと市教育委員会に寄付しました。

いつもお仕事ごろうさま

6月の第2日曜日の「花の日」にちなんで木造保育所（千葉敦志園長）の園児13人が6月8日、職場訪問として市役所を訪れ、花と手作りの壁飾りの絵をプレゼントしました。

市役所ロビーで園児たちは賛美歌を合唱し「いつも私たちのために働いてくださってありがとうございます」とあいさつをして佐藤副市長に花束を手渡しました。佐藤副市長は「すてきな花をありがとう。みなさんも花のように明るく元気に大きくなってください」とお礼を述べお菓子をプレゼントしました。同保育所では市役所のほかにも消防署、警察署、郵便局を訪問し花をプレゼントしました。



小舟を操りジュンサイの摘み取り

木造平滝地区では初夏の訪れを告げるジュンサイの収穫が始まりました。ジュンサイの栽培は水田を改良した沼で行われています。沼の水面は淡い緑色の葉で埋め尽くされ、農家が若芽を丁寧に摘み取っていました。6月17日から収穫を始めた農家の男性は作業しながら「春の低温の影響で例年より遅れている感じ。昨年より量は少ないが出来はますます」と話していました。収穫作業は7月下旬まで続くとのことです。



ホタルの幼虫を放流

つがる地球村の池で5月25日、森田保育所の年長児35人がゲンジホタルの幼虫200匹を放流しました。

地球村ではホタルの光り飛び交う姿を楽しんでもらおうと2年前からホタルの幼虫を放流していますが、今年は初めて同保育所の園児たちを招待して放流しました。池のほとりでは園児たちが幼虫とカワニナが入った小さなバケツを手で「元気に育ってね」と声をかけながらそっと放しました。工藤暁宗ちゃんは「早く大きくなってお尻が光るのを見たい」と楽しみにしていました。地球村の今淳一館長は「順調に成長すれば7月頃ホタルの成虫が舞う姿を見られるだろう」と話していました。

旬の農産物を地産地消

地元で採れた農産物、山菜、加工食品などを販売する「木造夕市」が6月3日、市商工会館前で開店しました。木造夕市の会（八木橋リウ子会長）が1990年から毎年開催している夕市は、会員が丹精込めて作った新鮮で安全な旬の野菜や漬物、手作り豆腐、お菓子などが店頭に並べられ、手頃な値段とあって好評を得ています。この日も多くの買い物客でにぎわい、オープンを記念して配られたエコバックを持ってお目当ての品物を買っていました。

夕市は10月まで毎週木曜日午後3時から開催しています。(9/23のみ前日の9/22開催)



花を植えて明るいまちに

木造コミュニティ実行委員会の花いっぱい運動の一環として、木造女性会（嶋野和子会長）の会員らが5月31日、市役所正面玄関前などに花を植栽しました。

この日は同会員4人が花でいっぱいの明るく気持ちの良い街にしようと、サルビアとダリア約40鉢を植えました。正面玄関は植えられた花で明るくなりました。